

受精鶏卵漿尿膜法を用いたヒト肺癌に対する抗癌剤感受性試験法の研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/14862

学位授与番号	医博甲第974号
学位授与年月日	平成3年3月25日
氏名	龍澤泰彦
学位論文題目	受精鶏卵漿尿膜法を用いたヒト肺癌に対する抗癌剤感受性試験法の研究

論文審査委員	主査	教授	佐々木 琢磨
	副査	教授	岩 喬
		教授	久住 治男

内容の要旨および審査の結果の要旨

多様な組織像をもつ肺癌に対する臨床予言性の高い抗癌剤感受性試験法は未だ確立されていない。そこで本研究では、肺癌に対する抗癌剤感受性試験法として受精鶏卵漿尿膜法の有用性を検討した。

対象は1987年1月から1989年12月までに金沢大学医学部第一外科において手術を施行された原発性肺癌症例のうちの107例(男83例,女24例,平均64.3歳)で、腺癌44例,扁平上皮癌43例,腺扁平上皮癌7例,大細胞癌5例,小細胞癌7例,カルチノイド1例である。これらの切除材料を用いて現在臨床で施行されている多剤併用化学療法の有用性を検討した。孵卵11日目の受精鶏卵漿尿膜の血管上に細切した腫瘍組織を移植し,3日後腫瘍血管新生が起こった時点で,臨床投与対応量の抗癌剤を漿尿膜の血管内に投与した。腫瘍移植後7日目に生育した腫瘍塊を摘出し,腫瘍重量を測定して検定により対照群(生理的食塩水を投与)との比較を行った。

その結果,これら107例中105例(98.1%)ときわめて高率に感受性の判定が可能であった。cisplatin (CDDP)とvindesine (VDS)の併用療法(PV療法)は15.4%(8/52例),CDDPとadriamycin (ADM)とmitomycin C (MMC)の併用療法(PAM療法)は8.3%(2/24例),cyclophosphamide (CPA)とADMとCDDPの併用療法(CAP療法)は0%(0/8例),MMCとVDSとCDDPの併用療法(MVP療法)は16.7%(3/18例)に有効であった。いずれか1つ以上のプロトコールが有効であったのは,全105例中31例(29.5%)であった。組織型別では扁平上皮癌,小細胞癌,腺癌,大細胞癌,腺扁平上皮癌の順に有効率が高かった。症例数の多かった腺癌と扁平上皮癌では,扁平上皮癌に対してMVP療法の有効率が有意に高かった。また分化度の違い・術前化学療法の有無の検討では抗癌剤感受性に有意な差は認められなかった。臨床効果との相関関係が評価可能な症例は現時点で18例あり,真陽性率は100%,真陰性率は82%,全体的な予測率は83%と高い臨床相関が認められた。本研究により受精鶏卵漿尿膜法は肺癌に対する抗癌剤感受性試験法として精度が高く,きわめて有用な方法であることが示唆された。

以上,本研究は肺癌に対する抗癌剤感受性試験法として受精鶏卵漿尿膜法を検討し,現在臨床で施行されている多剤併用化学療法に新たな基礎的知見を提供した価値ある論文と評価された。